

4 三大学医工薬連環科学教育研究機構 自己点検・評価及び

実施課題 大項目	実施計画課題	実施状況	裏付資料	点検結果	評価結果
教育課程の構築	現行カリキュラムでの単位互換に基づく、事業の実施	関西大学:微生物学4、福祉工学概論、機能性食品、社会環境適応材料、栄養科学、バイオメカニクス、大阪医科大学:健康科学概論、医学概論、大阪薬科大学:生薬学1、応用放射化学、生薬学2、機能形態学1を実施。配信大学以外の履修学生は(微生物学4:103名、健康科学2:1名、生薬学1:1名、応用放射化学:1名、福祉工学概論:50名、社会環境適応材料:11名、栄養科学:144名、バイオメカニクス:51名、医学概論:47名、機能形態学1:22名、生薬学2:2名、機能性食品:0名であった。これらの講義はすべて遠隔講義システムを利用して、学年暦の関係で受信できないときはDVDによる補講も行った。	平成22年度 双方向講義 時間割 平成22年度 双方向講義科目履修者数履修届表	平成21年度に比べ、双方向講義科目が12科目と増加し、配信大学以外の履修者数が100名を超える科目も現れた。	◎
医工薬連環科学教育研究機構による事業の効率的実施	本事業の運営に関わる事項について最高決定機関である運営協議会およびその実施方法について検討を行う運営協議会専門部会は、その効率的運営をめざして、テレビ会議システムを用いて実施している。平成22年度実績として、運営協議会は5回中4回、専門部会は3回中2回をテレビ会議で実施している。	議事録	議事録	平成22年度は、運営協議会の80%と専門部会の50%をテレビ会議システムを用いて実施している。また、Face to Faceの会議形態でも、前者で20%、後者で50%実施されており、効率的に実施されている。	◎
学則整備(主に、関西大学)	関西大学 システム理工学部 機械工学科、化学生命工学科 化学・物質工学科および生命・生物工学科の選択科目等に設置した。	学則改正案資料	関西大学 システム理工学部および化学生命工学科の選択科目等に設置され、理工系学部の専門科目と位置づけられた。	◎	◎
実技科目内容の検討(基礎実験など)	出張講義等で実施している実験について、医工薬を連環させる内容のものを選択し、大学教育として提供できる内容に改善するための検討を行っている。	議事録	医工薬連環科目としての実験科目について、大学での教育科目としての改善について検討を進めることが望まれる。	○	○
専門基礎科目の内容改善と新設科目の内容検討	双方向講義については、毎回の講義で授業アンケートを実施しており、それに基づいて、教育開発部門で検討し、改善案を確定している。また、アンケート内容は授業担当者にも即日送付され、授業担当者自らの授業改善を実施している。さらに、医工薬連環科学科目についても、検討を進めており、平成23年度開設をめざしている。	履修学生アンケート 議事録	教育開発部門で開講科目の履修者数やアンケート結果をもとに、開講科目の見直しを行っている。また、各担当者が授業改善に取り組んでいるが、それらの情報を集約することでより改善が進むと予想される。医工薬連環科学科目については、平成23年度開設をめざしている点は評価できる。	◎	◎
共通教科書の草案作成	医工薬連環科学科目開設のための検討と同時に、その科目のための教科書について、内容、執筆等について検討を進めている。	講義計画案 シラバス案 議事録	医工薬連環科学科目の内容の検討と同時に、教科書の内容について検討を進めることが望まれる。	○	○
学生による授業評価アンケートの実施	学生による授業評価アンケートは各大学で実施されているが、特に双方向講義科目では、毎回の講義終了後にアンケートが実施されている。	履修学生アンケート	学生による授業評価アンケートは実施され、さらに、双方向講義科目受け入れ校で、毎回の講義でアンケートが実施されている。十分な授業評価アンケートが実施されている。	◎	◎
平成23年度実施へ向けて双方向授業における改善と準備	学生の授業評価アンケート、授業担当者からのヒアリングにより、教育開発部門で、より効果的な授業方法や魅力ある授業内容について、検討している。	履修学生アンケート 議事録	学生の授業評価アンケート、授業担当者からのヒアリング結果に基づいて教育開発部門で改善策を検討している。	△	△
医工薬連環事業を推進する上で必要となる他分野専門知識・学力に関する調査・分析	平成21年度の双方向講義科目の論文試験結果の分析及び今年度も履修者を対象に授業評価アンケートを実施し、その内容について、教育開発部門で検討を進める予定である。また、滋賀医科大学 長浜バイオ大学を訪問調査し、情報交換を行った。	履修学生アンケート 訪問調査報告書 議事録	論文(レポート)試験の分析、他大学調査、授業評価アンケートは実施されており、得られた成果に基づき、検討を進める必要がある。	○	○

第三者評価 結果

A評価委員指摘事項	評価結果	B評価委員指摘事項	評価結果
単位互換に基づく双方向講義科目が12科目実施されていることより、本課題を達成している。しかし、春学期(4科目)と秋学期(8科目)の科目数に大きな差が見られ、春の講義をもつ少し増やすことも必要と思われる。また、受講生が極端に少ない科目では講義科目名が配信大学生に理解されていないことも考えられ、科目名の工夫もあればと思われる。	◎	配信大学以外の履修者が12科目中8科目で10名以上、100名を超える科目もあり、事業計画を満たしているが、履修者が2名以下の科目もあり、改善の余地がある。	○
今年度は運営協議会を5回と専門部会を3回開催(主にテレビ会議システムを利用)し、運営の詳細が議論され、議事録も残されていることより、本機構による事業の効率的実施を達成している。	◎	効率的に実施されており、計画を達成している。	◎
整備の遅れていた関西大学の理工系学部(システム理工学部、化学生命工学科)の学則に選択科目等として設置されたことより、関西大学の学則整備を達成している。	◎	関西大学の学則が適正に改正された。	◎
本年度では実技科目として基礎実験は殆ど行われていないようであるが、その検討については次年度から大阪薬科大学で生薬学と機能形態学で基体期間中に実施する計画があることより、本項目を部分的に満たしている。しかし、残り2大学でも実施を検討されることが望まれる。	○	具体的に検討を進める必要がある。	△
授業アンケートは毎回実施し、運営協議会専門部会でその問題点を討議して改善に努めていること、および医工薬連環科目として大学の教育に貢献するオリエンス形成の講義を次年度に開設すること等により、本項目は達成している。但し、開講時間、受講生の学年や専門知識のレベルの違いによる理解度など解決されていない問題点も見られる。	◎	開講科目の見直し、平成23年度開設に向けた具体的な検討など、計画を達成している。	◎
次年度から開講される医工薬連環科学の教科書作成に向けて準備が進められていることより、共通教科書の草案作成を満たしている。しかし、出来れば開講初年度から受講生に教科書を配れるようにするべきと思われる。	○	各大学から授業計画案が出ているが、共通教科書の具体的な草案がまだ決まっていない。早急に煮詰める必要がある。	△
双方向授業において学生による授業評価アンケートは全ての授業で毎回行われていることより、アンケートの実施でアンケートが実施されている。しかし、現在実施しているアンケート(講義内容と理解度)は高く評価されるが、講義の最終回に教員の教授法に対する評価のアンケートも必要と思われる。	◎	授業内容についての興味や理解度の結果が集約されているが、聴講を希望する科目を訊くなど、もう少しきめ細かいアンケートの実施が望まれる。	○
双方向授業に対する授業評価アンケートの結果および講義担当者からのヒアリング結果によって多くの問題点が明らかになっている点は評価できる。しかし、3大学の教育環境の違いや施設・設備の違いによりその改善策が短時間で簡単に出不せない問題もあるように見受けられ、これらの改善に対する努力が望まれる。	△	具体的な改善策の検討結果を早急にまとめ、平成23年度実施に向けた準備を急ぐ必要がある。	△
他分野専門知識・学力に関する調査・分析について平成21年度の試験結果と授業アンケートの分析は行われたようであるが、本年度についてはこれらに検討を予定していることこの項目は現時点では評価できない。しかし、他大学の訪問調査も終えていることから分析する準備は出来ていると評価できる。	○	調査結果は得られているが、その分析について不十分な部分があり、改善が望まれる。	△

「医工薬連携科学」教育システムの構築と社会還元

～分子から社会までの人間理解～

実施課題大項目	実施計画課題	実施状況	裏付資料	点検結果	評価結果
	生命科学分野の教育・研究実績のある大学への訪問調査	滋賀医科大学・長浜バイオ大学間の戦略的大学連携支援事業「びわこバイオ医療大学間連携戦略」の実施状況等調査のために、滋賀医科大学および長浜バイオ大学を訪問した。また、平成23年1月24日に東京で開催された「大学教育改革プログラム合同フォーラム」(主催:文部科学省)では、同様の取組みを実施している関係者と積極的に情報交換を行った。	訪問調査報告書 大学教育改革プログラム合同フォーラムパンフレット 出張報告書	長浜バイオ大学および滋賀医科大学の事業実施担当の先生方からの説明および意見交換を行い、非常に参考になる情報を得た。また、「大学教育改革プログラム合同フォーラム」では同じ事業を推進する関係者と情報交換できた。	◎
教育支援システムの構築と教育環境の整備	特別任用教員・TA(Teaching Assistant)の雇用による教育環境のさらなる改善	平成22年度は双方向講義科目の増加に伴い、TAを増員した。特別任用教員として、関西大学で1名、大阪薬科大学で1名雇用している。	雇用契約書 TA名簿 TA勤務簿	TAの増員により、双方向講義時の遠隔講義システムの準備や講義のビデオ撮影等、さらに講義中のシステムエラーにも迅速に対応し、講義の進捗を十分にサポートされている。また、特別任用教員の雇用により、正課授業だけではなく、補講やオフィスアワーの円滑な実施につながっている。ただし、大阪薬科大学では制度上の理由もあり両人材の雇用には至っていない。	○
	各大学の関係機関との密接な連携による実施体制の見直し	運営協議会を中心に、各大学の関連機関(法人、教務部門、ICT教育部門など)と議論を重ね、運営について体制の見直しを含めて議論を行っている。	議事録	運営協議会を中心に、各大学の関連機関(法人、教務部門、ICT教育部門など)と、現時点での運営による事業に実質化と効率化を踏まえて議論を進めながら、助成支援終了後の運営体制を踏まえての議論も望まれる。	○
	「医工薬連携科学教育研究機構教育サポート部門」による定期的な教育環境のさらなる改善	双方向講義における授業支援機器や授業内容コンテンツなどについて教育サポート部門で検討し、電子黒板システムなどを導入した。また、遠隔講義という形態に係る問題点や改善点については、講義担当教員や特別任用教員が講義前後にも意見交換している。その内容は教育サポート部門に報告されている。	電子黒板システム(写真) 議事録	双方向講義における授業支援機器や授業内容コンテンツなどについて教育サポート部門で検討し、改善を進めている。例えば、講義中の板書が遠隔講義システムでははっきりしないという意見に対して、電子黒板システムを導入して、提供大学での講義での板書を受入大学では、その板書の内容を液晶プロジェクタで投影できるということを改善した。今後も更なる改善が望まれる。	○
	特別研究やゼミナールなど、大学院生・教員の研究活動支援システムとしての運用推進	大学院生や教員の研究活動についての支援システムは、図書館の共同利用などの程度で、教員間での積極的な研究活動までには至っていないため、検討段階で留まっている。現在、運営協議会および専門部会で鋭意検討を進めている。	議事録	教員間の積極的な研究活動を促す仕掛けと仕組みについて、その支援システムの構築と同時に、運営協議会および同じ専門部会で検討を進める必要がある。	△
	実験器具・各種計測機器の購入	HGS分子構造模型、システム顕微鏡、卓上電子顕微鏡など医工業を連携させる実験科目(実技科目)で使用できる器具・機器の購入を計画的に進めている。	器具・機器台帳	医工業を連携させる実験科目(実技科目)の充実をめざした器具・機器購入をさらに進めることが望まれる。	○
	特別任用教員・TAなどの補助員の配置点検	特別任用教員・TAなどの補助員については、双方向科目の増加に伴い、TAの増強を行った。	雇用契約書 TA名簿 TA勤務簿	平成22年度は1講義に1名の体制で運用が可能であったが、大阪薬科大学では6年制への移行に伴い、平成23年度のTA確保について検討の必要がある。	○
	オフィスアワー・ネットワークの運用	毎週木曜日12時10分～12時40分、遠隔講義システムを用いて実施している。	オフィスアワーの様子(写真) ウェブサイト 議事録	現時点ではオフィスアワーの利用者は少ない。その理由としては、科目提供大学は当該大学でのオフィスアワーを利用しており、提供科目と利用している大学では、毎回講義での授業評価アンケートや講義前後の時間を活用して要望を述べられるので、各講義で要望に則した改善が実施されていると考えられる。今後は、講義毎にアンケートとオフィスアワーの連携について検討し、オフィスアワーの有効利用をめざすことが望まれる。	○
	教員の交流による他大学受講生との直接的な意見交換と講義内容の改善	講義提供大学の教員が授業の進捗等に合わせた講義受信大学に出講した(関西大学提供科目「微生物学4」が大阪薬科大学で1回、「福祉工学概論」が大阪薬科大学と大阪薬科大学で各1回、大阪薬科大学提供科目「生薬学1」が関西大学で1回、「生薬学2」が関西大学で2回実施された)。これらの実施により、遠隔会議システムによる講義としての問題点を把握し、その改善に向けた授業支援機器や授業内容コンテンツの改善などについて、教育サポート部門によって検討がなされている。	議事録 ニュースレター第2号	科目提供大学でなく受入大学で講義を実施し、遠隔会議システムによる講義としての問題点を抽出し、改善に向けて教育サポート部門によって検討されている。しかし、この試みは学生にとって学習意欲向上にとって有益であり、授業担当者とFACE to FACEで講義が受けられるメリットは大きい。	○

A評価委員指摘事項	評価結果	B評価委員指摘事項	評価結果
長浜バイオ大学と滋賀医科大学の戦略的大学連携支援事業「びわこバイオ医療大学間連携戦略」の訪問調査、および文科省主催の「大学教育改革プログラム合同フォーラム」に参加していることより、本項目を達成している。	◎	他大学間の事業実施例の訪問調査、「大学教育改革プログラム合同フォーラム」参加による情報収集など、計画を達成している。	◎
特別任用教員については関大と大阪薬科大で各1名を雇用し、TAについては各双方向講義に各1名を雇用している。特別任用教員は本事業の講義以外に運営にも参加して事業の推進に大きく貢献し、TAは遠隔講義システムの準備やビデオ撮影など講義の進捗をサポートしていることより、教育環境のさらなる改善を期待している。しかし、大阪薬科大学に特別任用教員が雇用されていないことは改善が望まれる。	○	TAの増員、特別任用教員の雇用により、教育環境が改善されたが、さらに改善の余地がある。	○
運営協議会とその専門部会が主にTV会議システムで頻りに開催されていることより、各大学の関係機関との密接な連携をとりながら実施されていて問題はないと思われる。しかし、助成支援終了後における本事業の体制作りについて検討はなされているが、早急に確立する必要があると思われる。	○	助成支援終了後も運営に支障が出ないよう、教員配置を含む運営体制について十分な議論が必要である。	○
本機構の教育サポート部門で双方向講義に使用される機器やその内容について検討し、講義担当教員や特別任用教員から問題点や改善点について意見交換して改善が図れていることより、教育環境のさらなる改善を達成している。	◎	教育環境の改善策が適正に実施されているが、今後も継続していく必要がある。	○
大学院生と教員の研究活動支援システムとしての運用は講演会やシンポジウムとの共程度であり、改善が望まれる。先ず、3大学の教員間での共同研究から始めればシステムの運用も可能と思われる。	△	講演会やシンポジウムが共催されているが、三大学教員間の共同研究を促すようなシステム作りが望まれる。	△
分子模型や各種顕微鏡などの実技・実験科目に必要な器具や機械が購入されていることより、本項目を達成している。しかし、次年度には新規科目も開設されることもあり、さらなる充実が必要と思われる。	○	医工業連携のための実験器具・機器が購入されているが、さらに計画的に必要機器の購入を進めることが望ましい。	○
本年度のTAは1講義(双方向授業)につき1名が配置され、さらに特別任用教員も講義によっては協力して実施されているため、本年度の補助員の配置点検は達成されている。	◎	平成22年度は計画を満了したが、次年度のTA確保に向けた取り組みを急ぐ必要がある。	○
毎週木曜日の昼に遠隔講義システムを利用して実施していることより問題ないと思われるが、利用者が少ない点が懸念される。講義終了時に呼びかけや予約を取るなど積極的に働きかけてみてはどうかと思われる。	○	質問等を受け付けるためのオフィスアワー・ネットワークが設定されている旨、講義の中で受講生に周知徹底し、利用促進を図りたい。	○
関西大学と大阪薬科大学の配信している講師(2科目)が講義受信大学にそれぞれ1回出向いて講義していることより、他大学受講生と直接的な意見交換がなされ、講義内容の改善にも役立っていると思われる。出来れば3大学(特に大阪薬大)での協力が望まれる。	○	講義提供大学の教員が受信大学に出講した実績が4教科で計6回あり、計画を満了している。他の教科についても出講実施に向けて努力された。	○

「医工薬連携科学」教育システムの構築と社会還元
～分子から社会までの人間理解～

実施課題 大項目	実施計画課題	実施状況	裏付資料	点検結果	評価結果
	三大学医工薬連携科学教育研究機構ホームページを利用した学生の学習援助体制の強化	三大学医工薬連携科学教育研究機構ウェブサイトを利用して、休講、補講レポート提出課題、シラバスなどの授業関連情報を提供している。また、ウェブサイトには学生を対象にした授業科目アンケート結果の一部も公表している。学習援助体制については、さらなる強化を検討する。	ウェブサイト	三大学医工薬連携科学教育研究機構ウェブサイトでの援助体制としては、休講、補講、レポート提出課題、シラバスなどの授業関連情報を提供している。また、ウェブサイトには学生を対象にした授業科目アンケート結果の一部も公表している。	○
	講義時間内に実施した小テストや演習などの整理・回収、質問事項の整理を通じた、他分野科目の習得に対する問題点の発掘と分析、ならびに、改善と履歴の蓄積	教育開発部門および教育サポート部門が連携し、双方講義で実施された小テスト、演習の結果、および担当教員および履修学生へのヒアリングをもとに、医工薬3分野の必須基礎知識の抽出するための検討を進めている。「バイオメカニクス」では自大学履修者の小テスト時に、受信大学の物理未履修者向けの補講を行ったり、「医学概論」や「福祉工学概論」では授業内容に即したレポートを課している。	履修学生アンケート 医学概論レポート課題 福祉工学概論レポート課題 バイオメカニクス補講資料	小テスト、演習の収集および担当教員および履修学生へのヒアリングを実施に向けて検討を進める必要がある。	△
教育活動成果の社会との共有による「地域社会」への還元	高大連携;自由研究顕彰制度	「自由研究コンテスト2010」という名称で実施した。高槻市教育委員会と連携し、市内小中学校への積極的な周知した結果、応募総数230件あり、第1次審査で22件を選出し、第2次審査(11月28日、関西大学高槻ミュージックキャンパス)で、22件の口頭発表が行われ、発表後の審査により、最優秀賞2名、優秀賞3名、関西大学賞1名、大阪医科大学賞1名、大阪薬科大学賞1名、審査員特別賞2名が選ばれ、他の発表者は入選となった。目標を上回る成果であった。これを来年度に継続するための方策を検討している。	作品募集チラシ 第2次審査会案内チラシ アンケート ウェブサイト ニュースレター第2号	初めての実施であったが、230件におよぶ応募があり、選考の結果、22チームが入選となり、口頭発表を含めた選考で、最優秀賞2名、優秀賞3名、関西大学賞1名、大阪医科大学賞1名、大阪薬科大学賞1名、審査員特別賞2名の入賞となった。当初の目標を上回る成果を得た。	◎
	高大連携;小中学生対象理科実験教室	「ワクワク夏休み科学実験」という名称で、8月7日・8日に小・中学生対象に関西大学高槻ミュージックキャンパスで実施した。小・中学生、保護者ら208名の参加があった。さらに、小・中学生では口頭発表できない実験を分かりやすく実施したこと、参加者は非常に満足であったという結果を得ている。	参加募集チラシ テキスト アンケート ウェブサイト ニュースレター第2号	小・中学生対象理科実験教室としては、夏休み期間の1回実施であったが、非常に好評であった。参加希望者が多く、今後の対応について検討を進めている。	◎
	高大連携;化学オリンピック委員会連携実験体験	平成22年7月31日に化学オリンピック連携事業として、化学オリンピックのプレイベントである「化学車」を高校生を対象に実施した。高校生ら12名の参加があった。	テキスト ウェブサイト ニュースレター第2号	化学オリンピック連携事業としては、1事業の実施であったが、高校生ら12名の参加者があった。	◎
	高大連携;高校生向け実験講座(日本科学技術振興財団主催(サイエンスキャンプ))	平成22年8月22日・24日、高校生対象のJST主催サマーサイエンスキャンプ2010「くすりを知る」、「創る」、「活かす」を関西大学、大阪医科大学、大阪薬科大学の3キャンパスで実施した。非常に多い86名の応募者から、実験内容の都合から12名を選考するという事になった。参加した高校生は実験とその成果の発表などを体験し、非常に満足であったという感想を得ている。また、多数の応募者に対する対応について、検討を進めている。	サイエンスキャンプ テキスト アンケート ウェブサイト ニュースレター第2号	関西大学の工学系学部は自主的にサイエンスキャンプを実施していたので、そのノウハウの蓄積があり、今回のイベントもそのノウハウを基に、十分な成果を挙げることができた。ただ、応募者に対して参加できる人数が少ない点について検討を進めている。	◎
	高大連携;「医工薬連携科学」分野に特化した小中学校への出張講義	出張講義については、小学校22回(予定も含めて)、中学校1回を行っている。アンケートの結果、児童・生徒が講義内容に非常に興味をもったことがわかる。ただ、中学校での実施回数が少ないので、これを増やすための検討を進めている。	実施小学校一覧 テキスト アンケート ウェブサイト ニュースレター第2号	小学校の22回、中学校の1回と非常に積極的に出張講義が実施されており、小学校からの依頼が増えつつある。また、講義数増加に伴う、出張講義対応講師の選考負担問題と中学校の出張講義の少なさについて検討を進めている。	◎
社会連携;高槻市等広報紙へ記事掲載、ならびに、出版物(ホームページ含む)などの製作・公開	「学びのひろば」(高槻市、2回)、市報たかつき(平成23年2月10日発行予定)、日経BPムック「変革する大学」シリーズ(関西大学(平成22年12月24日)、サンケイリビング(高槻、茨木版、10回掲載予定)だけではなく、機構のホームページを運営し、随時更新を行っている。また、高槻商工会議所の協力により、会員企業約2,400社にも広く広報している。機構刊行物としては、紹介パンフレット(年1回)、ニュースレター(年2回)を刊行している。	「学びのひろば」 「サンケイリビング」 「日経BPムック」 ウェブサイト 「紹介パンフレット」 ニュースレター第2号	高槻市やその近隣をはじめ、全国的な広報を積極的に展開している。	◎	

A 評価委員指摘事項	評価結果	B 評価委員指摘事項	評価結果
本機構ウェブサイトを利用して授業関連情報(レポート提出課題、シラバス、休講、補講、授業科目アンケート結果等)を公表していることより、学習援助体制の強化を達成している。	◎	ウェブサイトを利用した学習援助体制は計画を満たしている。公表されているアンケート結果の中には「工学部から医工薬連携科学の大学院に行けるようになれば良い」との記載もある。アンケート回答の内容によっては何らかのレスポンスが必要ではないか。	○
この項目に関する資料としては前述の履修学生アンケートとレポート程度である。今後は問題点の発掘と分析を積極的にを行い、必要があれば早急に改善することが望まれる。	△	他分野科目の習得に対する問題点を十分に分析し、講義内容の改善につなげることが望まれる。	△
小・中学生を対象とした「自由研究コンテスト2010」は応募総数も230件と多く、22件の入選者の口頭発表後に最優秀賞など10件を表彰し、残りを入賞にしたことなど小中大連携ではあるが高く評価でき、目的を達成している。	◎	小中学生に知的好奇心をもたせる絶好の機会となり、計画を達成することができた。継続するためには、担当教員に過剰な負担を強いることのないような仕組みを検討されたい。	◎
小・中学生を対象とした「ワクワク夏休み科学実験」を2日間亘って開催し、生徒と保護者で203名の参加があったことは実験内容も良く練られたものであり大成功と思われる。これらの事より、本目的を達成している。	◎	小中学生に対して理科に興味をもたせる非常に良い企画であり、目標を達成することができた。実験用テキストも非常に良くできていた。	◎
化学オリンピック連携事業の一環として「化学車」を大阪薬科大学のオープンキャンパスに合わせて開催し、父兄を含む高校生12名の参加があったことは評価でき、本項目の目的を達成している。	◎	化学の楽しさを高校生に体験させる絶好の機会となり、計画を達成することができた。継続するためには、担当教員に過剰な負担を強いることのないような仕組みを検討されたい。	◎
サマーサイエンスキャンプを2泊3日の日程で3大学を循環する形式で開催し、多くの高校生応募者(86名)の中から12名を選抜して実施され、参加者から高い評価を得ていることより、目的を達成している。しかし、次回からはもっと多くの高校生が参加出来るように工夫と努力が望まれる。	◎	高校生に「くすり」に関連する実験、観察、聴講、発表を通してサイエンスの世界を実感させることができ、計画を十分に達成している。	◎
出張講義は小学校に22回と中学校に1回実施されており、アンケートから小学生(5.6年次)にも理解されているようである。また、講義数増加に伴う、出張講義対応講師の選考負担問題と中学校の出張講義の少なさについて検討を進めている。	◎	児童・生徒に対して日頃の授業とは異なる貴重な経験を与えることができ、十分な成果を達成した。継続するためには担当教員の負担が大きくなり過ぎないような仕組み作りが必要である。	◎
高槻市や茨城市を中心とした市報、日経BPムック、サンケイリビングなどへの掲載や機構のホームページや紹介パンフレット、ニュースレター等で公開していることより、目的を達成している。	◎	積極的な広報活動により、計画を達成している。	◎

「医工薬連携科学」教育システムの構築と社会還元

～分子から社会までの人間理解～

実施課題大項目	実施計画課題	実施状況	裏付資料	点検結果	評価結果
社会連携:家族向け公開講座(子ども体験コーナー併設)	社会連携:家族向け公開講座(子ども体験コーナー併設)	「高槻家族講座」という名称で、第1回は「もっと食べよう、米粉食品」というテーマで6月12日に大阪薬科大学で講演会と子ども体験コーナーを実施。第2回は「おいしいのタイムカプセル、冷凍食品」というテーマで10月9日に株式会社ニチレイフーズ関西工場子ども体験コーナーを、10月16日に大阪薬科大学で講演会を実施した。第1回は講演会に197名、子ども体験コーナーに小学生39名(保護者28名)の参加があり、第2回は講演会に191名、子ども体験コーナーに小学生23名(保護者17名)の参加があった。両講座とも好評であった。	開催案内チラシ 配付資料 アンケート ウェブサイト ニュースレター第2号	今年度は2回開催され、大学と企業の産学で実施されたことは非常に意義深い。また、参加者はどちらの190名を超え、子ども体験コーナーも盛況であった。来年度以降も産と学で、特に企業で継続的に実施するための方策について検討を進めている。	◎
	社会連携:市民講座(相談コーナー併設)	5月22日に第29回大阪薬科大学市民講座として、「介護・看護を支える科学」というテーマで実施された。参加者は215名であった。また、相談コーナーとして「くすりの相談室」が開設された。講演会も相談コーナーも好評であった。	開催案内チラシ 配付資料 アンケート ウェブサイト ニュースレター第2号	今年度は1回の実施であったが、講演会と相談コーナーの構成は、参加者にとって非常に有用であるという声を得ている。来年度以降、開催回数の増加とそのテーマについて検討が望まれる。	○
	社会連携:医工薬連携科学シンポジウム開催(年3回)	7月3日、大阪薬科大学において、三大学医工薬連携科学シンポジウム(3)が実施され、66名の参加があった。また、10月2日、大阪薬科大学において、三大学医工薬連携科学シンポジウム(4)が実施され、51名の参加があった。さらに、平成23年1月13日に三大学医工薬連携科学シンポジウム(5)では70名の参加があった。今後は、2月28日に三大学医工薬連携科学シンポジウム(6)が開催される予定である。三大学医工薬連携科学シンポジウム(6)は関西大学先端科学技術シンポジウムと共催で開催された。	開催案内チラシ 配付資料 ウェブサイト	年間4回の開催が予定され、内3回は既に実施されている。参加者は50-70名程度多いとは言えないが、内容がより学術的になるため、他の講座のように一般の方の参加は難しいようである。今後は、他の講座との関連性を充分踏まえた上で、一般参加者が増える方策を検討することが望まれる。	○
	社会連携:成果報告書の作成と公開	成果報告書は平成23年3月中旬までに終了し、3月末日の公開する予定である。	成果報告書	成果報告書の作成に向けて、運営協議会で議論を進めている。	◎
教育活動成果の社会による「地域社会」への還元	社会連携:外部評価結果公表	外部評価に向けて、運営協議会において、自己点検・評価事項について検討を進めている。外部評価予定については以下の通りである。今年度の自己点検書・評価書(暫定版)を1月下旬までに作成し、外部評価委員(原則産学各1名)を12月中旬までに決定し、1月下旬に自己点検書および点検評価書を外部評価委員に送付し、平成23年3月中旬の外部評価報告会を開催し、3月末に自己点検評価および外部評価結果を公表する予定である。	議事録 成果報告書	外部評価に関する議題は、運営協議会において、自己点検・評価事項で検討され、自己点検・評価書(暫定版)を作成し、外部評価委員2名が決定した。他の予定については、運営協議会で検討が望まれる。	○

A 評価委員指摘事項	評価結果	B 評価委員指摘事項	評価結果
子ども体験コーナーを含む「高槻家族講座」を大阪薬科大学で2回開催し、2回とも200名に近い参加者があったことより、目的を達成している。	◎	身近な「食品」をテーマに産学協同で2回開催されており、成功を収めることができた。	◎
大阪薬科大学が毎年開催している市民講座に平成21年度から3大学連携事業として開催するようになり、本年度も3大学から講師を派遣して1回実施している。参加者も215名と多く、全講師によるパネルディスカッションや薬の相談室も設け、市民にとって有意義な講座であると思われる。	◎	計画を満足するものであったが、市民の関心が強い内容であるので、開催回数の増加が望まれる。	○
本シンポジウムは年4回の開催を予定し、既に3回を終了しているが、出席者は60人前後である。出席者は大学教員が中心と思われるが各大学で回は開催されるため大学による参加者の偏りは無いと思われる。シンポジウムの目的を達成している。今後も連携科学の進展を意識したシンポジウムにするべきで、一般向けを強く考えない方が良いと思われる。	◎	計画を満足するものであったが、専門家を対象とした高度な学術的内容に重点を置いたものにするのか、一般市民を対象とした啓蒙的なものにするのかの議論が必要である。	○
現在作成中の資料を見る限り全く問題は無いと思われる。	◎	既に作成中とのことであるので、計画を達成できるものと思われる。	◎
外部評価も含めた自己点検・評価書を作成中とのことで評価結果の公表は問題無いと思われる。	◎	外部評価委員が決定し、評価が進行中である。	○